

平成30年度(2018年度)

管理事業名	自然体験交流センター事業			総合計画の 体系	第4章 第1節	個性がひかる学びと文化創造のまちづくり 学ぶ意欲と主体性を育てるまちづくり		
主な歳出 予算科目	一般会計	(款) 10	教育費	(項) 5	社会教育費	(目) 5	自然体験交流センター費	
部局名	地域教育部	予算執行所属		青少年室				
予算大事業名 自然体験交流センター管理事業		上記以外の歳出予算科目及び予算大事業名						
<b>事業の目的と概要</b> 「青少年に集団での生活を通じて自然と共生し、あらゆる生物の命の尊さを体感する場を提供するとともに、市民に自然を生かした生涯学習及び交流の場を提供し、青少年の社会性及び豊かな人間性を育む」ことを目的に設置する施設です。 開設以来、長らく「青少年」を主たる利用対象とした施設運営が行われてきましたが、平成21年(2009年)7月、その利用範囲を幼児から高齢者まで、あらゆる世代の市民へと拡大し、広く市民が自然の中でリフレッシュしながら自然体験学習や環境学習を行える場としてリニューアルしています。								

I 事業の成果(実績)

指標名	単位	平成28年度	平成29年度	平成30年度	成果指標の定義
利用者数	人	46,602	45,075	43,455	1年間を通して自然体験交流センターを利用した人数。
使用料収入	円	7,305,950	8,216,660	7,554,090	使用料の収入実績。
成果の説明	自然体験交流センターの管理・運営については効率的・効果的な施設運営を目指して、平成24年度(2013年度)から指定管理者制度を導入し、青少年・野外活動団体に加えすべての市民が環境学習や生涯学習に取り組める施設として、主催事業等の充実を図るなどより高水準な市民サービスの提供に努めました。平成30年度は台風や地震の影響により年間利用者総数が昨年度利用者総数を下回りましたが、使用料収入は7,554,090円となり過去3年間の平均7,495,623円を上回りました。 また、利用者の方々で構成する「利用者懇談会」を年2回開催し、利用者の立場からセンターの管理運営に関する意見等をいただく中で、それらの意見を参考に施設運営に反映させています。 更に、指定管理者の施設運営状況の確認等と協議を目的として、毎月1回、市と指定管理者による運営会議を開催し、利用状況や利用者アンケートの結果等についても分析しています。				

II 財務情報

◆行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	平成28年度	平成29年度 A	平成30年度 B	差額 B-A
地方税	-	-	-	-
分担金及び負担金	-	-	-	-
<b>使用料及び手数料</b>	<b>7,306</b>	<b>8,217</b>	<b>7,554</b>	<b>△663</b>
国庫支出金(経常費用充当)	-	-	-	-
府支出金(経常費用充当)	-	-	-	-
財産収入	-	-	-	-
寄附金	-	-	-	-
他会計からの繰入金	-	-	-	-
受取利息及び配当金	-	-	-	-
その他	149	130	130	-19
経常収入 小計(a)	7,455	8,347	7,684	△663
給与関係費	1,495	1,430	1,439	9
<b>物件費</b>	<b>82,855</b>	<b>82,790</b>	<b>82,815</b>	<b>25</b>
維持補修費	498	16,672	1,287	△15,385
社会保障扶助費	-	-	-	-
負担金・補助金・交付金等	-	-	-	-
特別会計への繰出金	-	-	-	-
<b>減価償却費</b>	<b>19,397</b>	<b>19,397</b>	<b>19,397</b>	<b>-</b>
徴収不能引当金繰入額	-	-	-	-
賞与引当金繰入額	124	125	131	5
退職手当引当金繰入額	1,529	93	113	19
支払利息	3,643	2,533	1,434	△1,100
その他	-	-	-	-
経常費用 小計(b)	109,541	123,041	106,615	△16,426
経常収支差額(a)-(b)=(c)	△102,086	△114,694	△98,931	15,763
特別収入	-	-	-	-
固定資産売却益	-	-	-	-
その他	-	-	-	-
特別収入 小計(d)	-	-	-	-
特別費用	-	-	-	-
固定資産除売却損	-	-	-	-
その他	-	-	-	-
特別支出 小計(e)	-	-	-	-
特別収支差額(d)-(e)=(f)	-	-	-	-
一般財源調整額(g)	-	-	-	-
当期収支差額(c)+(f)+(g)	△102,086	△114,694	△98,931	15,763
一般財源充当額	133,285	147,455	143,875	△3,579
一般会計からの繰入金	-	-	-	-
一般会計への繰出金	-	-	-	-
再計	31,200	32,761	44,945	12,184

行政コスト計算書の主な増減理由(特徴的な事項)

勘定科目	決算額の主な内容
使用料及び手数料	自然体験交流センター使用料 7,554千円
物件費	指定管理委託料 82,642千円 樹木撤去業務委託料 173千円
減価償却費	自然体験交流センター建物 19,397千円

◆キャッシュ・フロー収支差額集計表 (単位:千円)

区分	平成28年度	平成29年度 A	平成30年度 B	差額 B-A
行政サービス活動収入	7,455	8,347	7,684	△663
行政サービス活動支出	88,622	103,683	87,239	△16,444
行政サービス活動収支差額	△81,167	△95,337	△79,555	15,781
投資活動収入	-	-	-	-
投資活動支出	-	-	12,202	12,202
投資活動収支差額	-	-	△12,202	△12,202
財務活動収入	-	-	-	-
<b>財務活動支出</b>	<b>52,118</b>	<b>52,118</b>	<b>52,118</b>	<b>-</b>
財務活動収支差額	△52,118	△52,118	△52,118	-
収支差額 合計	△133,285	△147,455	△143,875	3,579
一般財源充当額	133,285	147,455	143,875	△3,579
一般会計からの繰入金	-	-	-	-
一般会計への繰出金	-	-	-	-
前年度からの繰越金	-	-	-	-

キャッシュ・フロー収支差額集計表の特徴的な事項

決算額の 主な内容	(財務活動支出) 青少年野外活動センター再整備費の地方債償還
--------------	-----------------------------------

◆単位あたりのコスト分析(「経常費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。)

指標名	年度	実績	単位あたりコスト	分析内容(前年度との増減理由)
利用者1人あたりのコスト	平成28年度	46,602人	2,351円	自然体験交流センター利用者1人あたり2,453円のコストがかかっています。経常費用の減少により、利用者1人あたりのコストは277円減少しています。
	平成29年度	45,075人	2,730円	
	平成30年度	43,455人	2,453円	
開所日1日あたりのコスト	平成28年度	346日	316,592円	自然体験交流センター1館で1日あたり310,831円のコストがかかっています。9月には台風の襲来により臨時の休所日が3日生じました。経常費用が減少したため、開所日1日あたりのコストは43,754円減少しています。
	平成29年度	347日	354,585円	
	平成30年度	343日	310,831円	

◆貸借対照表

(単位:千円)

勘定科目	平成29年度末 A	平成30年度末 B	差額 B-A	勘定科目	平成29年度末 A	平成30年度末 B	差額 B-A
現金預金	-	-	-	流動負債	52,243	27,720	△24,524
未収金	-	-	-	地方債	52,118	27,589	△24,529
財政調整基金	-	-	-	短期借入金	-	-	-
短期貸付金	-	-	-	賞与引当金	125	131	5
徴収不能引当金	-	-	-	未払金	-	-	-
その他流動資産	-	-	-	リース債務	-	-	-
有形固定資産	714,234	707,039	△7,195	その他流動負債	-	-	-
土地	-	-	-	固定負債	30,489	2,873	△27,616
建物・工作物	714,234	707,039	△7,195	地方債	29,133	1,544	△27,589
リース資産	-	-	-	長期借入金	-	-	-
建設仮勘定	-	-	-	退職手当引当金	1,356	1,329	△27
無形固定資産	-	-	-	リース債務	-	-	-
インフラ資産	-	-	-	その他固定負債	-	-	-
土地	-	-	-	負債の部合計	82,733	30,593	△52,140
建物・工作物	-	-	-	純資産	631,501	676,446	44,945
建設仮勘定	-	-	-				
重要物品	-	-	-	純資産の部合計	631,501	676,446	44,945
図書館資料	-	-	-				
投資その他の資産	-	-	-	負債及び純資産の部合計	714,234	707,039	△7,195
出資金	-	-	-				
長期貸付金	-	-	-				
基金	-	-	-				
徴収不能引当金	-	-	-				
その他債権	-	-	-				
資産の部合計	714,234	707,039	△7,195				

Ⅲ 財務構造分析

▽人にかかるコストの内訳

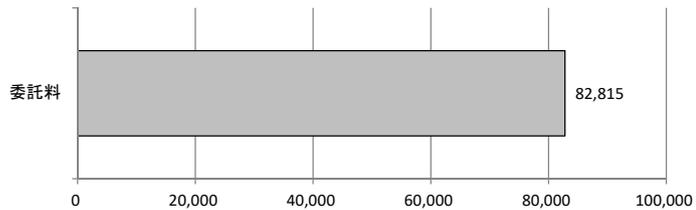
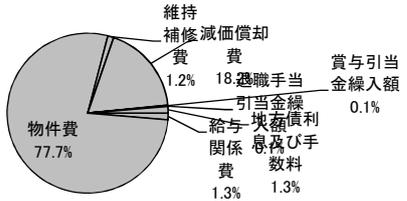
事業従事人数	常勤・再任用	非常勤	臨時雇用員	審議会委員等	合計(千円)
	月平均	月平均	年間従事延日数	実人数	
	0.2人				1,682
給与関係費等	1,682千円				
内、時間外勤務手当	0千円				

貸借対照表の主な増減理由(特徴的な事項)

勘定科目	増減理由

▽経常費用の構成割合

物件費の内訳(単位:千円)



▽施設の概況

施設の名称	吹田市自然体験交流センター(わくわくの郷)
取得年月日	昭和36年(1961年)12月14日
建物・工作物の取得価額	1,068,372 千円
建物・工作物の減価償却累計額	361,333 千円
利用料金収入	7,554 千円

▽分析指標

(単位:%)

分析指標	年度			差 B-A
	平成28年度	平成29年度 A	平成30年度 B	
施設維持補修費比率	0.0	1.6	0.1	△1.5
施設老化比率	30.5	32.4	33.8	1.4
受益者負担比率	6.7	6.7	7.1	0.4
徴収不能引当率	-	-	-	-
一般財源充当比率	94.7	94.6	94.9	0.3
経常費用対公共資産比率	10.4	11.6	10.0	△1.6

【参考:市保有施設全体の老化比率は56.2%】

Ⅳ 総括

▽分析結果の説明

【貸借対照表】

既存施設の老化率が1.4%進行しました。

【行政コスト計算書】

経常費用の主なものにつきましては、物件費82,815千円(77.7%)、減価償却費19,397千円(18.2%)、地方債利息及び手数料1,434千円(1.3%)、給与関係費1,439千円(1.3%)となっています。コスト全体の約78%を占める物件費の内訳は全て委託料です。

▽分析結果を踏まえた事業の課題

平成24年度(2012年度)から指定管理者制度を導入し、指定管理者の持つノウハウを生かした施設管理・運営により、台風等により利用者数が減少に転じて平成30年度の使用料収入における一人あたり単価は平成28年度を上回っています。(参考:平成28年度-156.7円 平成29年度-182.2円 平成30年度-173.8円)

今後は、市が負担すべき維持補修費の財源確保も含め、計画的に維持補修をすることで施設の魅力をさらに向上させるとともに、市と指定管理者が毎月定例的に協議を行うことにより、普段から十分なコミュニケーションを取りながら、より一層の市民サービスの向上とより良い施設運営を目指します。